

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：民生費 項：児童福祉費 目：家庭児童福祉費

事業名 「ライフデザインを考える」啓発プロジェクト事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

健康福祉部 子ども・女性局 子育て支援課 少子化対策係

電話番号：058-272-1111 (内 2438)

E-mail：c11236@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 4,349千円 (前年度予算額：5,000千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財産 収入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	5,000	2,478	0	0	0	0	0	0	2,522
要求額	4,349	2,174	0	0	0	0	0	0	2,175
決定額	4,349	2,174	0	0	0	0	0	0	2,175

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

- ・少子化の大きな要因として、非婚化・晩婚化が近年加速していること、非正規雇用の増加により結婚できない若者の増加があげられる。また、晩婚化に伴い高齢出産や不妊治療受診が増加している。
- ・これらの現状を解消するため、人生の早い時期に結婚、妊娠・出産、子育て、就労等に関する知識や人生設計を考える機会の提供が求められている。

(2) 事業内容

- ・人生の早い時期において、結婚、妊娠・出産、子育て、就労等の人生設計を考えるための中・高校生向けの啓発冊子を作成・配付し、家族や子どもを持つことを前向きにとらえてもらう機会を提供する。

①中・高校生向け「啓発冊子」の作成・活用

- 中・高校生向けに今後の人生設計を考える上で必要な知識等を盛り込んだ啓発冊子を家庭科の副読本として作成し、県内の中学生及び高校生に配布している。冊子のより効果的かつ効率的な活用を目指して、教育委員会と連携していく。

②スキルアップ研修・ライフデザイン講座講師派遣の実施

- 中学校・高等学校での活用やライフデザイン教育の充実に向け、教育委員会と連携し、教員のライフデザイン教育に関するスキルアップを目的とした研修会等を実施する。
- 子育ての喜びや楽しさ、育児休業の取得、仕事と子育ての両立等について経験者が語る「ライフデザイン講座」を、小・中学校、高等学校で開催。

(3) 県負担・補助率の考え方

1 / 2 (地域少子化対策重点推進交付金を活用)

(4) 類似事業の有無

有 【類似事業】女性の健康支援センター事業 (いのちの教育 (性教育))
「いのちの教育 (性教育)」を推進するため、各保健所で学校等からの依頼があった場合に「健康教育」を実践するものであり、本事業の趣旨とは異なる。

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	290	講師謝金
旅費	186	費用弁償、業務旅費
需用費	25	消耗品費
印刷製本費	3,848	ライフデザインを考える啓発冊子作成
合計	4,349	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

第4次 岐阜県少子化対策基本計画

(2) 国・他県の状況

○冊子・リーフレット

・ライフデザイン啓発冊子「motto 未来へ～ライフデザインを描く～」
(大分県)

(3) 事業主体及びその妥当性

県下全域を対象に実施するものであるため、県が事業主体として妥当である。

事業評価調書

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

(事業目標)

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
中・高校生向け啓発冊子を作成し県内の中学校及び高校に配布する。

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値	目標	達成率
小・中学校、高等学校への講師派遣によるライフデザイン講座受講者(累計)		—	—	79人 (R2.11)	2400人 (R6)	3.3%

○指標を設定することができない場合の理由

(前年度の取組)

- ・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）
(冊子)
令和2年 6月 プロポーザル評価会議開催
令和2年 11月 県内の高校、市町村へ配布
令和3年 2月 高教研家庭・福祉部会で冊子の活用に関するアンケートを実施

(前年度の成果)

- ・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果
(冊子)
令和元年度に県内の高校家庭科教諭に対して行ったアンケート調査の結果では冊子に対する期待・要望が多く寄せられ、また今後の授業でぜひ活用したいとの声も寄せられている。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い、△：必要性が低い 	
(評価) ○	<p>少子化の大きな要因として、非婚化・晩婚化が近年加速していること、非正規雇用の増加により結婚できない若者の増加があげられる。また、晩婚化に伴い高齢出産や不妊治療受診が増加している。こうした背景を受けて、若い世代に対し人生の早い段階から、情報提供を行うとともに、人生設計を考える機会を提供し啓発していく必要がある。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおり又はそれ以上の効果が得られている、△：まだ期待どおりの成果が得られていない 	
(評価) ○	<p>教科書は全国的なデータが掲載されている一方で、啓発冊子は、県内のデータや事例を掲載し、身近な情報として、自分事としてとらえやすいと評価されている。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている、△：向上の余地がある 	
(評価) ○	<p>初版から6年経過したことから高校生向け冊子の内容を一新し、新たに中学生向け冊子を作成した。</p>

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 <p>ライフデザインの啓発、人生の早い時期からの正しい知識の普及促進のためには、事業の継続実施が必要。今後は更なる普及促進のため、あらゆる機会を捉え、ライフデザインについて考える機会をより多くの若者に、反復して提供していくことが必要である。</p>

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか <p>啓発冊子の配布を継続していくことにより、より多くの若い世代に対して人生の早い段階から人生設計を考える機会を提供、普及啓発していく。</p>
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課</p>	
<p>組み合わせて実施する理由や期待する効果 など</p>	

